

非核の政府を 求める大阪の会

ニュース

非核の政府を求める大阪の会 豊島 達哉
 〒542-0012 大阪市中央区谷町 7-3-4 (新谷町第3ビル 210号)
 TEL.06(6765)3032 FAX.06(6765)3033
 URL・https://hikaku-osaka.jp/
 行 E-mail・hikakuosaka@hotmail.com
 hikaku-osaka1986@kind.ocn.ne.jp

第197号 2020年5月1日

今こそ、非核の政府を！ 核保有国及び“核の傘”諸国の軍事費を削って新型コロナ対策に！

国民の“いのちと暮らしを守る政府を！”

過去最大の伸び率 世界の軍事費190兆円

いま世界は、新型コロナウイルス感染の影響によりいのちと暮らしを脅かされています。その最前線で闘っている医療従事者の皆さんに敬意を表します。

国連のグテーレス事務総長は、「第二次世界大戦の終結以来、これまで人類が経験してこなかったほどの深刻な影響」であると憂慮しています。予定されていたNPT再検討会議も延期を余儀なくされています。

そうした世界は、いまも1兆7390億ドル(約190兆円)もの巨額の軍事費を“浪費”しています。特に核保有国及び“核の傘”諸国、中でも米国は2020年予算に国防総省予算180億ドル(約80兆円)、エネルギー省の核兵器設備維持更新予算に320億ドル(約3兆5000億円)、合計すると約8兆5000億円で、

日本の今年度の予算「防衛費」は8年連続増額で5兆3000億円、さらに米国からの要請の「有償軍事援助」に4000億円です。

使える小型核兵器の実践配備の危険性

米国は、ロシア、中国に対して弾道ミサイル搭載原子力潜水艦に小型核を搭載したとの情報。今年2月4日の米国国防官の声明で判明しました。広島型原爆の3分の1程度といわれていますが、使用されれば、数万人の犠牲者がでるであろう、と言われています。米国のシュルツ元国防長官は、限定核戦争の予想が大規模な核戦争へ拡大する恐れがあると指摘しています。

かつてセルビアの青年が発した1発の銃声が第一次世界大戦を引き起こしました。また1937年7月7日、中国盧溝橋で発射された1発の銃声が中国との全面戦争へと拡大していきました。歴史はそのことを証明してい

ます。トランプ大統領はかつて“核兵器は使うもの”との信念を表明していました。もし、配備されている小型核を使う「ペンドラの箱」を開けるようなことになれば、人類の生存そのものを危機に陥れます。核兵器の直接的な被害を免れても、地球上に残存している放射能汚染などで全世界の人々は想像に絶する日々をおくることになりま。そのことは、日本の被爆者の方々がその身で証明されてきました。

個人には補償しない安倍政権

新型コロナウイルス感染問題で安倍政権は、「自粛」を国民に求めながら、個人の補償はしないとの姿勢。いま、闘われている「ヒバクシャ近畿訴訟」においても、ヒバクシャの立場には一切立とうとしません。さらに、高知での「ビキニ核実験被害者の救済を求める裁判でも被ばくの事実を認定するも原告の請求を棄却す

る安倍政権の主張を追求する判決が1審に続き2審でも出されました。

核兵器禁止条約には「核被害者への補償」が明記されています。安倍政権は何としても核兵器禁止条約の発効を阻止したいのであろう。新型コロナウイルスの影響で「核のない世界」を求める運動が見えにくくなっています。核開発よりコロナ対策を「自粛と補償は一体」の声をあげていきましょう。(事務局一同)



【非核五項目】

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまででの合意にもとづいて国際連帯を強化する

2020年原水爆禁止世界大会 in ニューヨーク中止!

NPT 再検討会議 延期

NPTから核兵器禁止条約へ

1968年、ワシントン・ロンドン、モスクワで調印され、1970年に発効したNPT条約(核拡散防止条約)は、核兵器の持てる国と持たざる国をつくりあげた不公平な差別条約であり、核兵器をなくす条約で

はない多国間条約です。日本の原水爆禁止運動は従来、主要な運動課題にあげてきませんでした。被爆50年の1995年のNPT再検討会議の無期限延長の決定に反対して、広範な世論とNGOが核兵器廃絶を要求しました。この動きを背景に非同盟諸国が国連総会に期限を切った初の核兵器廃絶決議を提起し多数で可決されました。また、NPTの無期限延長にたいし、その付帯決議で96年に地下核実験禁止を含む包括的核実験禁止条約(CTBT)を締結することが決定されました。しかし、その前後フランス、中国さらにインド、パキスタンが核実験を強行し核拡散が広がる動きの中で2000年のNPT再検討会議を迎えました。

最終的に再検討会議の最終合意文書は「本会議は、核兵器不拡散条約第6条および「核不拡散および軍縮のための原則と目標」にかんする1995年決定の第3段落および第4段落b項を実行するための、体系的かつ漸進的努力のための以下の実質的措置に合意する。第6条のもとですべての締約国が責任を負う核軍縮(nuclear disarmament)につながる、自国核兵器の完全廃絶を達成するという全核保有国の明確な約束」という今日につながる到達点をえしました。その後、核保有国はその合意を無視し続けるなか2010年NPT再検討会議では、「再検討会議は、NPTの目的に従い、すべての人々にとつてより安全な世界を追求し、核兵器のない世界の平和と安全保障を実現することを決定する。会議は、すべての締約国が第6条に基づいて誓約している、核軍縮・廃絶につながる、自国の核兵器の完全廃

絶を実現するという核兵器国の明確な約束を再確認する。会議は、すべての核兵器国に具体的な軍縮・廃絶努力に着手するよう呼びかけ、すべての国が核兵器のない世界の実現と維持のために必要な枠組みを創設する特別な努力を行うことが必要であることを確認する。」2012年に2015年NPT再検討会議準備委員会、ノルウェー、スイスなどの呼びかけで、16カ国政府が共同声明を発表しました。その中には、日本政府は含まれませんでした。相談もされませんでした。核兵器廃絶を求める諸国は、日本の橋渡し役など期待をしていますが、その特徴は、「核兵器使用の非人道性」を前面に打ち出し、その非合法化を訴えるものです。NPT再検討プロセスにおいて、事態を前に動かそうという強い決意の表れであり、被爆者と原水爆禁止運動の

声に対する諸国政府の応答でした。2015年のNPT再検討会議は最終文書の採択はできませんでしたが、最終文書(案)で「オープンエンドの作業部会(OEWG)」を提唱しました。第70回国連総会決議「多国間核軍備撤廃交渉の促進」が賛成138、反対12、棄権34で可決され、「核兵器のない世界を達成・維持するために結論を下す必要がある具体的で実効ある法的規定や基準を扱うため」に、すべての国に開かれ、市民社会の参加も推奨されるオープンエンドの作業部会の設置を決定されました。そして2016年2月、5月、8月に国連欧州本部で開催されました。核保有国はボイコット、日本をはじめ同盟国が代弁者になるという会議でした。橋渡し役ではなく代弁者役です。そして2016年8月19日に国連総会への報告書

を採択しました。その報告書は、国連総会に對して、2017年に核兵器禁止条約交渉の会議を招集することを勧告しました。(賛成68、反対22、棄権13(日本は棄権)) 「核兵器を禁止し全面廃絶へ導く法的拘束力のある協定を交渉するため、すべての国に開かれ、国際機関と市民社会が参加し貢献する会議を2017年に国連総会が招集すること幅広い支持をもって作業部会が勧告した」ものです。ついに核兵器禁止条約の交渉開始の扉が開かれることになりました。そして、2017年7月7日を迎えることとなります。

核兵器禁止条約を論議する世界各国政府と市民社会の代表



旅



ウズベキスタンの



タシケント郊外のコリアン合同農場を訪れた。その5代目のリーダー、キム・ビョンファさんを顕彰する博物館を訪問のためだ。スターリン時代の1937年、極東から中央アジアへ約17万人の強制移住が行われ、着の身着のままで貨物列

車に追いたてられたコリヨ人(朝鮮人)たちは食料もほとんどない中、5千数百キロを移動。餓死・凍死したコリヨ人も多数いたという。

キム・ビョンファさんもその一人である。彼らは強制移動させられたにもかかわらず、勤勉で、多くの労働英雄を生み出すほどだった。また農場から研究者や弁護士、医者も多く輩出した。

この合同農場は37年高麗人が20余名でつくった「北極星農場」がベースである。入植地は耕作には不向きな荒野、湿原で、到着した冬はバラックで生活し、穀物もなく野草で飢えをしのいだという。キムさんは40年、農場代表に選出され、沼地を開墾し農場を拡大。麦、綿花、稲の一大生産地とした。第二次世界大戦には対独戦争で大きく貢献した。その後多民族の農場へと膨らむなかで生産性はソ連有数でずば抜けて高かったという。80年には人口は1万人近くに膨れ上がったという。キムさん自身はソ連の労働英雄の称号を得る。74年5月7日にキムさんは亡くなったが、農場名に名前が残り、博物館が…。

博物館を案内してくれた女性は、キムさんの遠縁にあたるという。ウズベキスタンのコリヨ人には今や珍しく朝鮮語が話せた。しかし込み入った話になると

ロシア語に。どうもウズベク語は不得意の様だ。この農場出身者で研究者になった者も少なくないが、ソ連の崩壊、ウズベキスタン独立によってウズベク語が公用語となり、ロシア語しか話せない研究者が大学を追われる事態が生まれたという。言葉は大きな課題だと考えさせられる。



博物館前のキムさんの銅像(右写真)は咲き誇る槿(むくげ)朝鮮の国花)の花を見守る。

「キムさん！槿の花の向こうには極東の景色が見えていますか」(日本コリア協会 飯田光徳)

西

新任世話人を紹介します

谷文和さん

(フリージャーナリスト)

アフガンの首都カブール郊外に広大な避難民キャンプがあります。カブールの冬はとても寒いので、子どもたちは街に出てせっせとゴミを拾ってきます。ガスも灯油もないので、夜間にそのゴミを燃やさないとい凍え死ぬからです。気温が氷点下まで下がる中、鼻水を垂らしながら震える子どもたちを撮影。傍らでは親父たちが窮状を訴えています。親父たちはしつかりと服を着て、なんと携帯電話を持っています。表向きの理由は「携帯がないと仕事に就けない」からです。子どもの下着を売って、「その携帯を売って、子どもの下着と靴下を買ってやれ」と感じます。40年以上続く戦争で貧困の連鎖がおきています。子どもたちは学校に行けないので、文字が読めない。

従って普通の会社に就職することができず、市場や建設現場での苦力(クーリー)になる。きつい労働で体を壊したり、一時の快楽を求めて麻薬に手を出したり。(アフガンのケシ生産は世界の90%) 彼らは絵に描いたような「貧乏人の子沢山」家庭を築いているので、親父が働けなくなると、子どもが苦力になって労働に出る。やがてその子どもが体を壊し…。

禁止されていなく、大規模な抗議活動も開催され、NPT再検討会も延期になりました。これは代表派遣募集について、来年NPT再検討会に活用させていただきます。



な ○雲に人間を殺させる

雲とはもちろん原子雲(きのこ雲)のことである。「死んだ女の子」と同じナジムヒクメットの詩である。そして作曲は外山雄三、この詩には最初に私達を人間にしてくれた母親、次に庭を駆け回る子ども、鏡の中に愛しい人を捜す花嫁、そして過ぎし日々を懐かしむ老人達が登場する。人間の一生の中で享受する掛け替えのないもの、それは母親の愛や未来に生きる子どもたちや愛し合う者たち、そして世のために働きぬいた老人たちである。これらの愛しいもの、掛け替えのないものを一瞬に奪ってしまう核兵器、人間の営みと核兵器は合いいれないものと鋭く追及している。世界で唯一の被爆国で

ありながら核兵器禁止条約に署名しない安倍首相、それだけではない何度も基地はいらないと意思を示した沖縄県民の声を聞かない安倍首相には被爆者の声が・沖縄県民の声が・九条守れの国民の声が聞こえないのだろうか。彼らに人間の営みを奪うことはできないとこの歌を聞かせたい。

○墓標

これは峠三吉の原爆詩集の中の詩である。齊美小学校戦災児童の霊と書かれた墓標のことをうたっている。瓦礫の中にうずもれ忘れ去られようとしている墓標に、どれだけのむごい思いをしたのか、悲痛な声で叫んだのかと子どもたちのことを思いめぐらせている。この詩は何と150行もの膨大な詩である。今までこんな長い詩を読んだことがない。無念の思いが、生きたかっただけの思いが、何度も何度も語られる。そしてとうとう最後に子ども達が墓標から出てきて

戦争を起こそうとする大人たちにむかって、黙っているのはいい、つぶらな瞳を輝かせてワアと叫んで飛び出してこい。と言うのだ。作曲の外山雄三はこの長い詩を「齊美小学校戦災児童の霊」と言う言葉を印象的に歌にしている。最後の「ワアと叫んで飛び出してこい」の所は涙なくしては聞けないところである。この歌は外山雄三の合唱曲集の組曲「そして一輪の花の他は」の中に納められている。この組曲の中に鋭い詩を歌にしたものがある。茨木のり子の詩で「木の実」である。ミンダナオ島のジャングルの中で島の男が木の上の実をするするよじ登って取ろうとする。それは罽褌であった。そしてこの歌は続く、この罽褌を愛おしく抱いたのはどこの女だろう。と・・・この歌も墓標と共に多くの合唱団で歌い継がれている。

○平和の旅へ

この歌は長崎の被爆者「渡辺千恵子」さんの半生を組曲にしている。うたごえ活動家の「園田鉄美」の作曲である。語りとソロと合唱で構成されていてシンセサイザーの効果もあってドラマチックにできている。1985年に創作され九州では150回近く上演され、全国でも演奏され続けている。造船所で働いていた渡辺さんは職場で作業中に被爆し体は



▲原水爆禁止世界大会に車いすで参加の渡辺千恵子さん

海老のように曲がったまま救出された。何度も手術をしてどうにか起き上がった。それが、精神的にふさが進む毎日が続いた。そんな時原水禁世界大会で体験を話してほしいとの依頼があった。この醜い体を人前にさらしたくないという思いがふつきれなかったが、母親の強い後押しで語ることにした。このことがきっかけで精神的に核廃絶を訴え被爆者として語り部の活動を生きがいとして生きた。渡辺さんは数年前に亡くなられたが、国連で核兵器禁止条約が締結されたことを知ったらどんなに喜ばれただろう。命を懸

け身体を貼って運動され続けた被爆者が大きな力となったことは間違いない。

なげい ○JUNONの国

平和行進で集会で歌う会が歌い続けられている歌である。「なげい」は中学生が最初に詩を作ったが、今や世界中で作詞されている。ミサイルではなく本やノートで、爆音ではなく歌の調べで、地雷ではなく小麦の種であつたら、そして戦争捨てて世界の平和のなげいが叶うまで歩み続ける。と格調高い決意の歌になっている。

「うたごえは平和の力」「うたごえは生きる力」「うたごえは闘う力」を合言葉に歌い続けたい！ 共に歌おう！ 核兵器廃絶の日まで！

(大阪うたごえ協議会 立川孝信)

